八　丁稚の過去現在將來

（改定經濟學研究　第二篇十）

丁稚の過去・現在・將來

諸君、私は丁稚の過去・現在・將來と云ふ事に就てお話を致します。先づ丁稚の定義を下します、丁稚と云ふのは諸君が御承知の通り商家に使はれて居て、商業上の色々の雜務に當たる多くは年のいかない雇人でさうして皆男であります、女の丁稚と云ふのはまだあつたことはない。この丁稚と云ふ者は何の爲めに商家に使はれて居るかと云ふと、金錢上の賃銀を貰ふ爲めに使はれて居るのではない、其の目的とする處は他にある。其の目的とは何であるか、商賣を覺える、商賣を覺えてどうするかと云ふと、其の得た所の知識を以て他日自分が獨立して主人と同じやうな商賣に從事する、是が丁稚の理想であり、目的であり、將來の運命である。而して其する所の仕事は何であるかと云ふと、何でもする、主人に使はれて居るから商賣上の事をするのは當然であるけれども、それのみではない、凡そ

主人の命ずる所のことは何事に限らず必らず之をする。或は臺所の手傳をすることもありませうし、お孃さんのお供をして琴のお師匠さんに通ふこともある、或は坊ちやんのお迎ひに學校に行くこともあるだらうし、凡そ人間のする仕事なら何でもやらない事はない、否時としては人間のする仕事以外の事もやらなければならない、丁稚と云ふ者は之に對して何等の異議を申立てる權利を有つて居らない。而して之に對する所の報酬は何であるかと云ふと、前申した通りに商賣上の仕込をして貰ふのが原則であつて、年に二回或は土地に依つてもつと多くも少い處もありますが、普通年二回宿入りと云ふことを許される、其の時幾らかの小使錢を貰ふ、又盆暮或は時候の變り目には仕着を貰ふ、さうして一番重なることは主人の家に寢泊りをして食事を給はると云ふことである。今此の狀態に一番近い狀態は何か外にないかと云つて廣く探して見ますが、なか〳〵目付かり難い、辛じて目付かつた、コレナラ先づ一番近い狀態にあると認められるのがある、即ち諸君が歴史上の過去の事實として知つて居られる所の奴隷と云ふものである。もう一つ之に似寄つたものは今日の世の中に現にありますが、それは外形が似て居ると云ふだけであつて、内容に至つては違つて居る、即ち外形の最も似て居るものは何であるか、監獄の囚徒――赤い着物を着て居る懲役人と云ふものが似寄つて居る。是が即ち丁稚と云ふものゝ定義である。これは獨り商賣上に限られて居るかと云ふと、今日では先づそうと普通考られるでありませう、所が實はさうではない。商賣上の丁稚と少しも違はないものが一ツある、それは工業と云ふ名は付けられないが手工業、即ちハンデ・クラフトの中にある。即ち年期野郎弟子、大工とか左官とか云ふやうな所謂職人の中の弟子と云ふもの是れである。無論其のする仕事は大變遠つて居る、一方は前垂をかけて長松〳〵と呼び立てられて店と土藏の間を馳摺り廻る人間である、處が職人の弟子と云ふものは辨當を擔いで行つて、仕事場で手傳をする。さう云ふ違つた仕事をして居るけれども、其の内容から云つて見ると二ツはまるで同じものである。而して此の丁稚並に年期野郎と云ふものは、今日現在日本の何れへ云つても存在して居るのである。日本の商業は丁稚なくして一日も存在せぬと云つても或は間違はなからう。扨て何故今茲に此丁稚なる憐れなる一種の人々を捉へ來つて、今日の講話の問題と致したかと云ふに、日本の商業と云ふ

ものは、此の丁稚と云ふものがなければ成立たない者になつて居る。今日商人となつて立派な地位を占めて居る所の人々は、皆一度は丁稚と云ふ時代を經過して來た人々である。又是等の人が自分に商賣を營んで行くには、丁稚なる階級の人間をこき使はなければ、商賣を經營して行くことが出來ないと云ふことになつて居る。是が果して昔から其通りであつたものであるか、現在の狀態に少しも違はないものであつたのか、將又今日の實際に於て此丁稚と云ふものが果して必ず缺くべからざる所の階級の人々であるか、幷に此制度が將來何時までも永續すべきものであるか否か、卽ち丁稚の現在、過去、幷に將來と云ふことは日本の商業經營上に中々重大な問題である。所が近來頻りに商業を發達させなければならない、商賣の經營法を改良しなければならないと云ふ論が識者間に稱へられて居る、併しながら商賣の經營を改良する商賣の組織を進歩せしむると云ふは單に仕組の改良丈けで出來上るものではない、商賣といふものも人間がして居る事であつて、神樣がして居る事でも鬼がして居る事でもない。然らば此の商賣を經營して居る所の一部分である、此の丁稚の制度竝に丁稚の制度に基いて出來上つて居る所の今日の商店の仕組と云ふ者は、果して充分に今日の商賣上の必要に應ずる者であるかないかと云ふ事は、先第一に研究しなければならぬ問題である。つい此の頃の事でありますが、現大藏大臣が確か大臣に成りたての事であつた、一席の演說を試みて言はれるには、戰後の日本を經營して行くにはどうしても商業を發達させなければならない、商賣に依つて富の增殖を圖らなければならない、併しながら今日の此の苦しい財政を負擔して、之に必要なる租稅を充分に徵收して行くやうな利益のある商業をしやうと云ふのには、今までのやり方では困る、どうかして之を改良することを考へなければならない、改良するには如何にするかと云ふに、所謂システム組織の改良である。どうも日本では誠に無闇に人を餘計使つて無駄なことをして居る、大藏大臣は芝居の例を引いて言はれたが、芝居を觀に行つても色々な頭の禿げた男だの、尻を端折つた男だの、端折らない男だの、是等の者が色々來てさうして御辭儀を澤山して色々な世話をする、それがために却つて用が辨じないのみならず費用が大變嵩む、それであるから一寸芝居を觀に行くのも甚だ癪劫になる。是は一つの例だが、丁度さう云ふ風に日本では未だ繁文縟禮をやつて居つ

て、システムの立て方が悪い。然らば如何にして此商賣上のシステムを改良するか、モウ少し規律のある經濟的なるものにする事を研究しなければならぬと云ふ趣意でありました。是は非常な名論であつて、今迄の國務大臣の口からは斯くの如き名論を聞いたことはないが、しかしながら此システムの改良と云ふことを少しく考へて見る必要があらう。システムとは抑も誰が拵へる、無論人間である。さればシステムを改良する前に人間を改良する必要がある。人間其のものを改良すると云ふことは到底一朝一夕のことではないが、併ながら人間は今日の儘の人間で差支ない。別に目を三つに改良する必要もなし、足を三本に改良する必要もない、唯其の人間お互ひの間の色々な組織を作り關係を立てゝ、其上に今日の社會を築き上げて居る。此關係をモウ少し切變へることが出來たらば、システムと云ふものは自然に改良することが出來る譯である。さう論じて來ますると諸君は必ず言はれるでありませう、改良をしやうと思ふから商業學校に行て學ぶ、商業教育を受けて將來の商人たるに必要なる學問と經驗との調和した立派な素養を作らうとして居るのだと、是は勿論の話であります。然ながら此商業教育と云ふものは—

—商人を養成する教育と云ふものは決して新らしいものではない、非常に古いものである。商業學校と名の付たものゝ出來たのは、日本は明治七八年頃でありますが、近頃故人になられた矢野二郎と云ふ人が森有禮と云ふ人と相談して建たのが、今日の高等商業學校の始めである。併ながら是は唯商業學校なるものが出來たと云ふだけであつて、日本にも商業教育と云ふものはずつと昔からある。商業學校と雖も極く新しいものである比較的極く新しいものである。併ながら商人の教育商業教育と云ふものは非常に古いものである。其れは何であるかと申すと、商人を仕込む所謂商業教育と云ふものは、即ち今茲に私が問題として提出した丁稚の制度と云ふのが、昔から非常に古くから傳はり來つて居る所の商業教育で、今日と雖も學校で授ける所の商業教育より遙かに範圍が廣い、遙かに大勢の人を育つて居る所の制度である。即ち丁稚の制度と云ふものは、一方に於て商業を經營して行く上に就てなくてはならない仕組であると共に、商人を養成する商業教育の大なる一の仕組であります。

一體この丁稚の制度が斯の如くに商業教育、商人養成を掌るやうになつたと云ふのは

何時のことであるか、卽ち丁稚の過去は如何なるものであつたかといふに、是は封建時代に發生したものである。然ながら日本の封建時代に日本の丁稚の制度が出來たばかりでなくして、凡そ何れの國でも、順當な發達を遂げて來た國にあつては、必ず或る時期に於て此丁稚の制度なるものを存して居つた。卽ち丁稚の制度といふものは、名こそ違ふけれども世界何れの國にも存在して居つたのである。今日世界の商業競爭場裡で一番進んで居る國と云はれる英吉利若くは之に續いて居る所の獨逸佛蘭西或は墺太利其外歐羅巴諸國は――亞米利加は別ですが歐羅巴諸國は、今日現在と雖も此丁稚の制度を存して居る、それは外觀に於ては日本の丁稚年季野郎とは大變違つて居るものであるけれども、其の內容に於ては少しも違はない所の制度を現に有つて居る。而して此現に有つて居る所の丁稚年季制度は、非常に識者の頭を痛める所の問題になつて居る。英語では「アツプレンチスシツプ」、商賣上の「アツプレンチス」もあれば工業上の「アツプレンチス」もある。日本でも商工業には丁稚若くは年季野郎の制度がある。併し何れの國でも農業には斯の如き制度は少しもない。是は何故であるか、此問に答へれば、何故に丁稚若くは年季制度と云ふのが發生し、如何にして發達して來たものであるかと云ふことを知ることが出來るのであります。

先づ商工業を營むやうになつたのはどう云ふ風にして始まつたかと云ふと、都會には初から工業商業と云ふものはなかつたのである、其の時分には都會の住民は大抵百姓であつたか、或は武士であつたかで、兎に角この商人若くは職人といふやうな特別な階級の人間は居なかつた。商業とか工業とかいふことは皆百姓が片手間にやつて居つたのであるが、それが段々發達して來て遂に獨立の業になつたのである、それが卽ち都會に起つたのである。田舍では工業若くは商業と云ふものは、今日と雖も十分に獨立したものでない。諸君が自分の田舍に就て御覽になつても直ぐ分かる。で商工業を以て專門として居る人間は都會で出來た。併ながら都會といふものは商工業があつたから出來たのでない、商工業よりは都會の方が先である。是は普通言ふ所の歷史の說明は大抵あべこべであつて、商工業が都會を發達せしめたといふが其は間違つて居て、初は百姓が都會を拵へたのである。所が一つ處に大勢の人間が寄ると云ふと、狹い處の土地に多くの人間

が居るからして百姓だけでは食つて行けない。そこで百姓以外に所謂副業――日本で農商務省が頻りに訓令などを發してやかましく言はれる所の副業――この副業といふものを營まなければならない。この副業が工業の初である。この工業が段々發達して來ると、自分達の造るだけの物を以て滿足して居ないことになつて、自分で造ることの出來ない物或は造らざる物を他から買ふと云ふことが起つて來た。そこで商業といふものが都會を中心として發生するやうになつて、さうして都會は重に商人並に職人の住ふ處と云ふ現象を生じたのである。所がこの商人若くは職人といふものは、決して今日のやうに銘々が獨立して、個人が自由の權利を以て働いて居つたものではない。百姓と雖も嚴重な制裁の下に皆共同に農業に從事して居つた如くに、商人若くは職人もそれ〴〵團體を形づくつて居つた。英吉利の言葉でいふと、ギルド」といふのは卽ち此團體の事である。日本には此「ギルド」に當るものがないかと云ふと、或は組合、或は仲間といふやうなものが日本の歷史の上に散見して居る、餘程「ギルド」に似たものである。この「ギルド」といふものゝ目的は何であるかと云ふと、同じ業をして居る者が一致團結して、其の業に從事し、他國人と附き合ふにも團體として附き合ふと云ふのが主義であつた。故に此組合の部員となるには面倒な條件があつて、見ず知らずの者は容易に部員になれない、之が段々組織が固くなつて來て、もう新らしい所の人間はどうしても此の「ギルド」の仲間に入ることが出來ない、必ず親代々「ギルド」に入つて居る仲間でなければ、「ギルド」に入つて獨立した一つの業を營むことが出來ないと云ふやうになつた。所が商工業の發達は決して停止して居らないから、さう云ふ狹い制度は商工業の進步發達に伴はない。此に於てか新たなる人を組合の部員とする方法を拵へなければならぬ。それには外からの人を取ることが出來ず、又さう云ふ人を得やうとしても得られない。故に自分等の子弟若くは同じ都會に住んで居る人の子弟で、他日其の業其の職に從事しやうと云ふ者を敎へ込むといふ仕組が出來た、之が卽ち、アップレンチスシップ」の制度の起りであります。初は自分達の職務を營む手助けをするよりは、寧ろ其の子弟を敎へてやらう、業を傳へてやらうと云ふことであつた。所が段々工業の進步、商業の進步と共に、人の數が益々餘計に要る、自分の仕事だけでは間に合はないといふにつれて、仕込むべき爲に託されて居る所の人

の子供も矢張り自分の用に使ふ、使はうと思へば一ばし役に立つ者が其の中から出來て來るといふ樣になつた。一方には自分達の仲間へ入つて來る人の數を成可く制限して、得られる所の利益を壟斷して仕舞ひたいと云ふ、何れの世にあつても、中世の時代には皆手前勝手な偏屈な偏狹な利己心を持つてやつて居たから、他の競爭を成可く杜絶したいと云ふことに汲々として居つた。而して此の弟子たちは相當の年限を仕込めば、それだけの業を覺へて獨立した商人となり、親方となる。トコロが是がさうなられては困るから、成可く其の親方となり得ることを困難ならしめるやうにした、其の第一は年季を大變長くする、元來この年期といふものは一番初は二年三年、或は長くつて五年位であつたのである、之を七年或は十年といふやうに長くしたと云ふのは、それは業を覺へることが段々むづかしくなつたと云ふことも少しは這入つて居る、工業の進歩につれて技術が込入つて來るから簡單に覺へられないと云ふこともあるが、それよりは寧ろ獨立して自分たちと競爭するやうになつてはお客が減る、さう云ふ者を杜絶しやうと云ふ所から來たのである。而して其の上に又この年季を勤めても直ちに之を獨立の人間と看做し、獨立の職人の親方と認むることをしないで所謂『旅稼ぎ』と云ふ義務を負はしてある。是は英國には此の旅稼ぎと云ふ字がない、なぜかと云へば英國には此の制度がなかつたので、其の代り英國は年季が長い。多くは十年或は十年以上の年季が普通である。歐羅巴大陸に於ては大抵五年或は七年で、其の代り此の年季を終へた後には旅稼ぎをさせる、是は獨逸の語で「ヴアンダーヤーレ」と云ひます。即ち方々彷徨して一定の時期を經なければならぬ。丁度今日大學を卒業しても、是はまだ雛鳥だといつて金を遣つて獨逸にでも留學をさせる、歸つて來ると立派な學者になつたと、斯う見てしまふと同じことである。旅稼ぎをするには、各都會が皆共通して居つて夫れ〴〵約束を結んで居る、丁度日本の昔伊勢參宮や善光寺參と同じで別に金を持つて出るのではない。只自分の腕と脛を持て旅に出掛けるのである。さうして到る處の都市に夫れ〴〵の組合があるからそれに投じて自分が氣に向き、向ふでも置いてやらうと言へば、其の處に居つて技術を覺へる、是は自分の志望によつて或る都市は或る業に有望である、彼の都市は彼の業が發達して居ると云へば、さう云ふ處にわざ〳〵行くと云ふ自由はある。この旅稼ぎの年限を終へると、今度

は工業上に就て言へば卒業製作といふものを拵へなければならぬ。此の事は英吉利にもある、英吉利では嚴重に行はれて居ります。即ち諸君が御承知の通り今日でも「マスターピース」と云ふ語があるが、今日では傑作といふ意味に用ゐて居るが、是は假に用ゐた言葉であつて元來傑作といふ言葉ではない。「マスター」即ち親方になるに必要な「ピース」(製作品)の事で、何か是だけの仕事が出來るといふ自分の腕一ぱいの製作品を拵へて、そうして其の拵へたものを仲間で認められて、是なら差支ないと云ふ段になつて初めて親方になる。親方になるにも、唯其の卒業製作が好かつたからと云つて直に親方になる譯には往かない、大變な金を使つて、仲間に入れて貰ふ爲めに盛んな御馳走をすると云やうな譯で、時も要れば金も要る、大變面倒な仕組であります。今日でも英吉利で代言人バリストルになるには先づ有名な代言人を親方として內弟子に這入り、或る年限を經ると代言人になるが、それには盛んな御馳走をやると云ふ奇妙な習慣のあるのは此の代言人も商工業と同じく丁稚制度年季制度で成立つて居た時分の遺物である。又英吉利あたりにマスター・オブ・アーツと云ふ學位見たいなものがある。コレハ學問上の年季を勉め上げた親方、即ちリベラル・アーツの親方と云ふ意味で、工業のは唯のアーツのマスターであるのです。又商業に就ては是は二つに別つて言はなければなりませぬ、海外貿易と、國內の商賣とは趣が聊か違ふ。海外貿易の方では是は多く所謂年季にやるには外國にやる、外國貿易に從事させる、外國の自分の取引先に遣るのと、或は特別にさう云ふ目的の爲に出來て居る處もある。其中で有名なるのは倫敦にある、今日でもまだ遺跡のある「スチールヤード」といふ、是が最も有名な者である。是は當時英吉利の商賣を殆ど自分の手に壟斷して居つた獨逸のハンザ商人が形づくつて居つた居留地である、獨逸の商人は此處へ多く子弟を遣つて、さうして英吉利と獨逸との商賣の取引に關する知識を得せしめた。もう一つ大きいのは伊太利でヴェニスが盛である、此處に獨逸人の一つの固まりが拵へてあつたが是は獨逸人ばかりでなく、墺太利人も瑞西人も行つてさうして伊太利の商賣の事を覺へて來た、其は今日でも同じく遺蹟が殘つて居ます、即ち「フォンダコ・デイ・テゾスキ」と申します譯して獨逸會館とでも云ふ可きものである。是は獨逸の例でありますが、他の國も皆さう云ふ風にやつて居ります。併し一番其の仕組の發達して居つたのは獨

F, VI, 142,

逸です。此時分は英吉利の外國貿易は悉く獨逸人の手中にあつた。英吉利人は唯倫敦のハンザ商人の處まで持つて行つて賣つて居つた。丁度日本人の外國貿易は外國貿易でなく、其實は横濱貿易であつたと同じで、英吉利人は倫敦貿易をやつて居つた、英吉利人が商賣人になつたのは新らしいことである、決して生れ付きの商賣人ではない。次に內國の商賣に就いてはどうかと云ふと、是れは大した知識が要らない、外國語の知識も要らなければ廣く旅をすると云ふ必要もないから、銘々が自分の取引をして居る仲間の中に自分の子弟を年季にやる、或は向ふの家と息子の取換へこをすると云ふやうな規定もある、或は都市と他の都市との間に兩方の息子を交換する、息子交換條約といふものが結ばれて居つた處もあつた。斯の如くするのはつまり自分と同じ商賣か若くは他日關係すべき商賣を敎へる爲めにやつたので、さうして斯ういふ子弟を受取る所の主人も、只コキ使ふ爲に受取つたのでなくして、之れを天晴れ商人に仕込んで歸してやるといふ云ふ積りで受取つたのである。是れが卽ち丁稚の制度に特色を與へた所以である。といふものは雇人として、今日の言葉でいへば勞働者として使ふ目的でなく、仕込んでやると云ふ目的であるから、多くは家族の一員として取扱つた。無論主人の家に寢泊りをするし飲食もする、主人の家を離るゝと云ふことは年に何回といふやうに定めてある、其の外は出られないと云ふやうな風で、極く縛り込んである。其代り決して酷く使ふことはない、自分の息子同樣に恤はつて遣つたものである。卽ち此の丁稚といふものゝ制度は家族的パトリアーカルの仕組になつて居る。所が十四世紀以後になつて、歐羅巴の經濟上の形勢が非常に變動した。どこの國も悉く其の變動の波に卷込まれた。殊に工業上に在つては新たに工業の遣り方が出來た。今までは皆職人の親方といふものが、自分の弟子或は弟子から上がつた所謂年季上がりと云ふ者を使つて、各々自分の家若くは自分の格式を以て業に從事して居る所謂「ハンヂクラフト」といふものが唯一の工業をやる制度であつたのが、新たに「マニュフアクチユーア」が起つた。「マニュフアクチユーア」とは今日では製造工業といふ意味であるが、この「マニュ」といふのは手で「フアクチユーア」といふのは造ると云ふ意味で、卽ち手で造る機械を使ふ所の工業の正反對のものを稱して「マニュフアクチユーア」といふのが此言葉の起りであつたのである。是はギルドの仲間

を外れた所の職人の間に出來て來た一つの仕組であつて、それは一つの資本主或は商賈人があつて、自分の方から資本を下ろして、各職人に銘々一部分の仕事をやらせ、之を纏めるのは最早親方の仕事でなくして、工業に關係のない商賈人即ち「キアピタリスト」資本主のやることであると云ふやうな仕組で、是は今日から見れば當然であるが、當時の「ハンデクラフト」の時代には新しい仕組であつた。此方が非常に利益である、此方が澤山なものが出來て生産費も廉いと云ふのであるから、仲間を造つて外の者は入れないと云ふやうな偏屈なる閥を造つて居る人達が競爭することは到底出來ないからして、どうか自分の地位を維持する爲めには下の者に益々壓迫を加へ、外の者を益々排斥して内に入れないやうにする。此時代には最早この仲間と云ふことが株になつて仕舞つて、この株を持つて居ない者はどうしても一個獨立の職人になれない、さうして其の株といふものは賣買をする、大變高いものである、故に減多な者は買ふことが出來ない、又それを買ふ位な金のある人は、そんな株を買はずに外の仕事が出來ると云ふやうになる、で多くは代々職人の仲間である所の子弟がなる、是れは容易くなれる。もう一つは若し親方の家に子弟がなければ娘に入婿をするのである。入婿といふことは日本ばかりのやうに思つて居るが、當時の歐羅巴には是れが盛んにあつた、入婿をすれば自然に閨閥で以つて、默つて居つても仲間に入ることが出來る、此の如く極く嚴重なる閥を拵へて居つた。此年季に入つて居る所の子僧は、自分の親が組合の仲間であつて獨立の親方であれば、無論自分も獨立の親方にもなれる見込があるが、さうでない限りは何時までも雇人の狀態に甘んじなければならぬ、さうして其の數は段々殖えて行く。段々人が餘計要るから餘計人を雇入れる、其大勢の者に到底獨立の資格を與へることは出來ない、又與へまいとするからして、どうしてもさう云ふ終生雇人に甘んぜねばならぬ種類の人間が澤山出來る。併し只働かすと云ふことは出來ないから、働かす爲には賃錢と云ふものを遣る。獨立の親方になり他日門戸を張ると云ふ見込はないが、日常して居る仕事に對しては賃錢をやると云ふことになつて、さうして今日の所謂賃錢を貰ふ勞働者階級が出來て來たのである。

商賈上で言へば工業上と少し違つて居る、と云ふのは、商人と云ふ者は今日でもまだ年季に這入ると云ふことは、獨立した業を得たいと云ふ爲めであつて、また獨立して業を營

む見込がある。何故かと云ふと、主人と同じ業をしないでも、商賣の事といふものはそんなにむづかしい技術はない、商賣上の知識は大抵どれにも共通するから、少し才智のある者は何の業にでも移つて行ける。又他の業に移らうと云ふにも、小賣の商賣といふものが今日でも澤山ある。故に今まで卸賣の大きな問屋に居た者が、小賣店を開くと云ふことになればそれで既に獨立した人間である。乃ち商賣上の年季野郎卽ち丁稚といふものは、工業上の年季野郎に比較すれば獨立の地位に達し得る見込が遙かに多い、多いから、卽ち現在の問題に移るので、今日でも商賣上に於ては丁稚の制度といふものが何時までも存在して居る。又之によつて獨立の地位を得やうと云ふ目的を初から立てゝ、此年季に入る者が澤山ある。工業上に於ては最早さう云ふ望みは絶へて仕舞つて居る。殊に十六世紀以後新たに工業の仕組を立つてから以來と云ふものは、「ハンヂクラフト」は段々範圍が狹くなつて仕舞つて、工業は主として「マニュファクチューア」然らざれば一歩進んだ「ファクトリー・システム」になつた。銘々が親方でござると言つて他の者を入れないで、やかましい年季をやらなければならぬと制限をした所が駄目だ。根柢から仕組が變つて仕舞つて居る。所が商賣上では、さう云ふ樣に根柢から覆ると云ふことは未だない。縱令有るとしても、それは外國貿易をする所謂大規模の商業人の仕組のものだけで、小賣商業と云ふものは保守的なものであつて、大きなものはない。歐羅巴でもなかつた、日本でも見えない。是れ今日「アツプレンチスシツプ」といへば主もに商賣上のことのやうになつて仕舞つた所以である。工業上にも「アツプレンチスシツプ」といふ語は使ふけれども、夫は昔の「アツプレンチスシツプ」ではない、所謂徒弟で年季野郎ではない。然るに商賣上には「アツプレンチスシツプ」の制度がまだ廣く行はれて居る、殊に日本では、誰でも商賣をしやうと云ふ者は、一度はこの丁稚といふ狀態を過ぎなければ商人になれないと、普通はなつて居るものである。所が現在の狀態に於ては甚だ困ることが出來て來た。なぜ困ることが出來たかと云ふと、この丁稚といふ者が修業を終へた後に獨立した商人になり得る見込が段々狹められて來た。先づ大きな經營でやると云ふことが利益であるから、之に對しては、小さい資本を有し小さい經營でやつて居る仕組と云ふものが追々倒れて仕舞つた。所が大きな規模でやる人間と云ふものは事實上澤山は出來ない、故に年季

を幾年勤め上げても、自分がそれだけの資本を有する力もなければ、大經營の商賣を切盛りして行く力のない人間は終身獨立して行けない、いつまでも雇人、いつまでも丁稚の年季上りとして居らなければならぬと云ふやうなことになつた。それからそれより比較的小規模でやることの出來る所の內國の商業の方はどうであるかと云ふと、之も段々人間の生活の程度が進んで來れば、餘計な人間を無駄に使つて置くと云ふことが出來ない、成可く人を減じて其代りに一人前の給金を餘計にして、さうして餘計に働かすと云ふことが經濟上の利益である。故に此「アップレンチス」を使ふと云ふことは、本當の經濟的の商賣をやる人には歡迎されないことである。大變に遲れた商賣の經濟法である、舊式の商賣法である。而してさう云ふ舊式の商賣には見込がない。でこの丁稚の始末と云ふものは英吉利でも、獨逸でも、佛蘭西でも、墺太利でも、瑞西でも、どこに行つても甚だむづかしい問題である。極く新らしいことで此に一つ、尙此困難を一層甚だしからしめる出來事が起つた。それは何であるかと云ふと、今までは大商業といへば卸賣、小商業といへば小賣といふことゝ同じに解釋されて居つた、所で此新らしい一つの變遷が出來た爲めに

さう云ふ定義はまるで覆へされてしまつて、卸つて卸賣よりも小賣の方に大商業のものが續々起つた。卽ち英吉利亞米利加で云ふ所の「デパートメント・ストーア」佛蘭西でいふ所のグラン・マガザンと云ふものが發生した。是は何であるかと云ふと非常に大きい規模を以て、總ての日用品は殆ど一處に集めて大きな店で賣るといふ先づ手近い所でいへば三越呉服店、あれのズート大きいものであつて、そこに行けば總ての用が辨ずる爲に其土地の人にばかり供給するのでなくして、小包郵便の制度が開けて以來、其小包郵便を利用して、郵送營業といふものを盛にやるやうになつて來て、詳しい說明書を配ばる、是れを見て第何號の何を送つて呉れと云つて葉書をやれば、直に其の品が小包郵便になつて來る、田舍の小さい店で買ふよりも遙に安く買へる、故に爲に都會の地に於て小さい商人がドンドン倒れるのみならず田舍の小賣商人が、小都會で郵送營業をやつて居る大店と到底競爭する事は出來ない。今まで丁稚といふものが稍々存在し得たのは大商業には從事出來ないが小商業には從事することが出來る、問屋にはなれないが小賣商にはなれると云ふ途が開けて居つたから行止りではない、段々後からして後詰の人間が商業社會に

入つて、丁稚といふ狀態から始めると云ふことに大して差支はなかつたからである。然るに斯う云ふ變遷が起つて來ると最早先が差支へて居る。此に於てこの丁稚の爲すべきことは二つしかない。一つは到底獨立の人になることが出來ないから見込を棄て、終世勞働者になる、卽ち商業的勞働者になると云ふことを以つて甘んずるか、ソウするとセールスガール女の賣子と競爭せねばならぬ。然らざれば初から丁稚にならない、丁稚以外の他の仕組を以て商業教育を受ける。此の二つの中のどつちかを取らなければならぬことになる。日本はまださう云ふような仕組がないから盛に丁稚を使つて居る。商業學校などが幾らもあるけれども、それに收容して居る所の人間の數は、之れを日本商業社會の諸般の勞働者の數に比ぶれば甚だ少ない、大部分は皆丁稚である。未來の大商人は、割合から言へば商業學校の卒業生よりは、矢張り丁稚から餘計起るべき仕組になつて居る。

所で前に申した日本の將來の商業の發達は「システム」の改善にあると云ふ、阪谷大藏大臣の演說を種々商賣社會に當欽めて見ると、どうなるかと云ふと、日本の商業社會の發達を妨げる所の一番根本の病弊は資本の足りないと云ふことでもなければ、交通機關の完全して居ないことでもなければ、政府が無暗に干涉していけないと云ふことでもなければ、外交が振はないと云ふことでもなくして、此の丁稚の制度にある。長松が日本の商賣進步の大敵である。この長松を薙ぎ倒して仕舞ふにあらざれば、日本の商賣の改良と云ふことは望まれない。此の長松式の商賣は、斯う云ふ人間を使はなければならぬ。卽ち少くも頭の中央にチョン髷を附けた人でなければ之を使へない。この丁稚が少し生意氣なことを言へば、チョン髷の人は到底之を支配して行くことが出來ない、故に生意氣なことでも言ひさうな人――商業學校を卒業した人などは這入つて來ない。丁稚のやつて居る所の人間はまだ新らしい仕組で商業を經營して行うと云ふ所の域には到らない、教育が足らない、思想が高尙でない、いろ〳〵非難があるから、新らしい商業經營の方式たる銀行とか會社とかでは丁稚の制度を殆んど採用して居らないと云ふのが一番の證據である。商賣上この丁稚制が一番宜いものならば銀行業でも會社の業でも何でも此の丁稚の制度で宜かりさうなものであるが、所がそれを採用しない、卽ち長松が存在して行く

のはそれを使ふチョン髷商人があるからである。今この丁稚がなくなつて仕舞へば自然チョン髷商人はなくなつてしまふ、幾らチョン髷を振立つて矢釜敷い事を言つても、言ふことを聞く者が一人も居ないといふことになる。何故長松が日本の商業の改良進歩の一番の敵であるかと言ふと、抑も人間の働きと云ふ者は唯手足の働きばかりではない、手足の働きと云ふ者は抑も末である。頭が働かうと云ふ氣にならなければ、幾ら鞭つても苛責しても到底働くものでない、悅んで働くと云ふ氣を與へなければならぬ、是は商業上ばかりでない、工業上に於てもさうである。所が此丁稚と云ふものは幾ら働らいても獨立の身分になると云ふ見込が段々減つて來る。而して自分の今働いて居る仕事に對しては報酬はないのに、是れに向つて本當の働きをすると云ふことは出來ない。所が丁稚の制度は別に給金をやるに當らない、之に給金をやると云ふやうな愚をすると云ふことはない。併し是は間違つた儉約主義である。只が一番廉いと思ふが實は只ほど高いものはない。月給が少なければ少ない程それだけ高く付く。日本の丁稚ばかりでない、一體の勞働者が大變少ない賃錢を以て働いて居る、之を目して日本は資本が甚だ乏しいけれども、此廉い勞働を以て歐羅巴と競爭すれば、まだ競爭の餘地は幾分かある、だからして勞銀の上がると云ふことをどうかして防がなければならぬ、殊に日露戰爭以後勞銀の騰貴する變があるから、之を抑へるやうにしなければならぬと云ふことを大に唱へる人がある。啻に所謂普通の人間ばかりでなくして、立派な學者と稱する人の中にもソンナ愚論を遠慮なく公表するものがある。若し日本の勞働が商業上にあれ或は工業上にあれ必ず斯くの如き廉いものであるならば是は大に考ふ可きである。日本の勞働の賃銀と云ふものは之を西洋に比ぶれば殆ど數ふるに足らぬ。然らばそれだけ生産費が廉く付いて居るべき譯である。所が物を比べて御覽なさい、日本の生産費は西洋の生産費よりも高い。それは機械工業の物は、日本の勞働者が機械工業に馴れて居らぬから、技術が下手であるから高く付くのだと云ふ辯護はあらう。それはそうであらうと思ふが機械を使はないで只手先の仕事でやる者でも、日本の方が高いものがイクラもある。是は或は當る例であるか當らぬ例であるか知らぬが、獨逸の或人が日本は大變に勞銀が廉いと言ふ、また機械を使はぬ方の即ち手でやる方が大變に發達してゐる、殊に日本人は器用で

あるから廉いであらう、試みに獨逸では本の脊中に貼る金箔といふもの、あれが非常に使はれて居る、殊に獨逸では澤山に本を拵へる、隨つて金箔が大變に要る、其の他到る處に金看板が掛けてある、此等は獨逸では機械でやつて居るのではない、矢張り手先で叩いて居る、故に之をば日本で以てやらしたならば金といふものは世界中の値段が違はない、そうして勞銀は安い運賃といつた所があんな輕い物であつて幾らもかゝらない、是は日本から取寄せた方が廉いだらうと云ふことを考へ付いた。で或る人が、兩方の金箔の値段を比べた所が、日本と西洋とは殆んど違はない、少しも違はない。是れは例にはならないかも知れぬが、他の物に就いて見ても、啻に手先の仕事ばかりでも總てのものに於て日本の方が生産費が廉く付くと云ふことは主張出來ぬ。是は何故かと云ふと、日本の勞働者は勞銀は大變に廉い、廉い代りに仕事が粗末である。農商務省あたり或は之に關係のある人達は頻りに日本では工業品を粗製濫造していけないと言ふ。工業品の粗製濫造といふことは、自然需要供給の上に於て取り去られる。人を欺しては綿の中へ石を入れたり、鏈錠の中に薪ざつぽうを入れたり、そんなことをすれば長く續かない、是は寧ろ取締る必要はない。自然の需要供給の關係で淘汰せられない粗製濫造なら、訓令や規則で禁止するのは愚である。品質の精巧なるもの許りが人間の欲望を充すものではない、惡くともそれ丈け安ければ矢張存在の理由を有して居る。英國人は頑迷で此の理を悟らないから近頃どし〳〵獨逸人にやられるのである。所が日本の困る事は人間の粗製濫造を無暗にやられることである、コレは甚だいけない。日本では甚だ値打の少ない、擬造贋造の人間が澤山ある。他の社會では少ないかも知れぬが經濟社會に於いては澤山ある。何んでも速成かんでも成功と云つて、人間に最も大切な修養も何も滅茶苦茶にする、是は甚だ害を爲して居る、この粗製濫造の人間の生産力は甚だ乏しい。此の頃も亞米利加の農務省で米作のことを調べた、即ち他の米作國のいろ〳〵な狀態を調べた所が、亞米利加の百姓一人でやる所の仕事は他の國の人の十七人前に當つて居る。日本は這入つて居ないかも知れぬが、そう云ふ調査があると云ふことを昨夜或る農學士の演說で聞きました。是は亞米利加では大變に機械を用ゐる、機械を用ゐるから澤山出來るが、併ながら米國で各種の産業に機械をなぜ用ゐるやうになつたかと云へば、それは幾ら農事改良とか農具

改良とか言つて勸めた所が、勞銀の廉い間は到底機械を用ゐることが出來ない、と云ふものは、勞銀が廉いから機械を用ゐる必要がない、勞銀が高くなつてはどうしても其の勞銀に拂ふ方を節約しなければならない。それには機械を用ゐる、機械を用ゐる日には、機械と人間の力を結び付けた生産力が上がつて來る、人一人前の生産力も又高い賃銀を受け乍ら生産費は安く付く、廉い賃銀を拂つて勞働者を節約する必要に迫られないのは却てこの廉い勞銀が進歩の敵である疑ふ可からざる證據ではないか。假りに此の點は除けても、尙亞米利加人或は英吉利人或は佛蘭西人、獨逸人の一人前の働きは、日本人の三人四人前の働きに突合ふかも知れない。そうすると一人の賃錢が半分若くは四分の一であつても、人を五六人も使はなければならぬと云ふことになると、賃錢から言つても高く付けば又餘計な人間を使へば廣い場處も使はなければならぬ、雜費に無駄ばかり澤山出る、一般の營業費と云ふものが餘計に掛かる。工業上に就いてはさうであるが、商業上はどうであるかと云ふと尙ほ更らさうである。一體商業に於ては、人間を使ふと云ふことが極く少しで濟む。所で日本では非常に多く人を使ふ、なぜ餘計に使つて居るかと云ふと、

丁稚の制度と云ふものがあつて人の子を只使ふことが出來る。此く大變便利なさうして其の實は甚だ害のある制度が存して居つて、其の爲めに役にも何にも立たない澤山の人間を只使ふ。一日の間に大した仕事はない、多くは居睡をして居る、番頭は帳場に座つて煙草をふかして居て、反物一反でも小僧に命じて藏から出して來させる。其の間にはお客も無駄な時間を費すし、又出したり仕舞つたりするから品物も痛む甚だ馬鹿な仕組をやつて居る。商店の仕組殊に店の構造などと云ふことに至るまで、この丁稚と云ふものがあつては邪魔になつて到底改良は出來ない。また働く時間に於ても、日本では常にだらしなく夜も遲くまで店を開けて居る。それが爲めに隨分無駄な入費を使つて居る、お客の方もだらしなく來るのであるが、店が閉まつてしまふと云ふことになれば、仕方がないから店の開いて居る內に買ひに來る、之も賃錢を拂つて居る所の高い勞働者を使つて居れば、自然さう無駄な仕組をしない。どうしても人間を節約する、又營業時間を短くする、其の代りに營業時間內に於ては非常な勢を以て活動する。所が丁稚の制度には勞働時間の制限は無論ない、工業上に於てはどんな小さい子供を使つても、兎も角賃錢を拂ふ

F. VI, 143.

からして、其の賃錢といふ方の必要から迫られて、さう馬鹿な無駄をしない、力を無駄にしない。無論道德上社會上の弊害といふ方はまだ改良は出來ないが、併ながら工業上に於ては、人力を無駄に使ふといことは自然の必要上雇主の方では大に愼んでやる、所が商業上に於ては丁稚といふものがある爲めに外のいろ〳〵な無駄に附加へて、人力「ヒューマンパワー」といふものを非常に無駄に使ふ。或人が日本の地勢を見ると到る所に山があり川がある、之を利用して水力電氣を應用して工業を起したならば非常に進歩をするだらう、勿體ないと言つたといふが、この「ウオーターパワー」を無駄にするよりも「ヒューマンパワー」を無駄にする方が非常に多いのである。如何しても此無駄を省くことをしなければならない。戰後の經濟策として或は外資を輸入しなければならぬとか、或は外國から借りた所が安く貸して呉れない、仕方がないから國內で造るには勤儉貯蓄をしなければならぬと云ふのは是れは一面の議論である。が資本の勤儉貯蓄よりも先づ第一に人間の勤儉貯蓄をやつて呉れなくては困る。工業上に於ては技術が中々複雜であるから、工場法案を出さうが何をしやうが改良と云ふことは中々一朝一夕にはむづかしいかも知れぬが、商業上に於ては困難は餘程ある、けれども其困難は技術上でなくして人間の上にある困難である、人間の頭さへ變へれば宜いのである。チョン髷頭を持つて居る人は、到底この丁稚制度と大福帳を廢めては商業が出來ないと云ふことを主張するであらうが、是は頭の新らしい人が商業に直ぐに當るやうになれば、言はずして自然に大福帳と丁稚は廢められる可き譯である。而して丁稚を廢めると云つた所で當今流行の法律で禁止をする、大臣が訓令を出す等と云ふことでは到底駄目だ、是は自然の必要に迫られて來なければならない。決して無暗に人爲で搔き廻はすと云ふことはいけない。自然の勢といふものがどうしてもさう云ふ風に迫つてくると云ふことにならなければならぬ。それには新しい近世的商業教育を受けた所の人、卽ち諸君の樣に商業學校を卒業した人が澤山出て行つてドシ〳〵商業社會に突貫して、チョン髷頭や大福帳の本城を突き破つてしまふと云ふことになれば、どうしたつて自然に丁稚制度は倒れざるを得ない、其の外に改良の途はない。商業研究會といふからには隨つて商業の經營法の研究と云ふものも道入つて居らう、是は商賣の發達と云ふことに非常に必要な研究である。無論商業經

營の問題は啻に丁稚ばかりでない。帳簿の改良「カード」式を用ゐると云ふ樣な事も大變な進歩である、商店の構造を改めるとか、執務法を替へるとか其外いろ〳〵「システム」の改良問題がある。併ながら此等凡てに先だつ根本の問題として、私は丁稚の問題を商店に於ける勞働問題の第一着手として諸君に十分に研究して戴きたいと思ひます。而して更らに進んでは他の問題に及び、恰かも工場内の勞働に對して工場法の存するが如く、商店内の勞働に對して保護の制度が確立し、之れによつて商業的勞働の能率の增進に貢献する樣にありたいと思ふのであります。此れやがて商業研究會の使命を實現する所以であると私は信ずるものであります。

右は三十九年六月三田商業研究會に於て講演したるものにして、其筆記は三田商業界二卷七號に掲載したり。